

いすゞ自動車株式会社 藤沢工場

所在地 神奈川県藤沢市

雇用障害者 肢体不自由者／聴覚障害者／視覚障害者／内部障害者／知的障害者／精神障害者



スキルアップに向けて、研修や検定を実施

事業所の概要

いすゞ自動車株式会社藤沢工場は、主として大型・中型・小型トラックの組立、エンジン・トランスミッションの組立、研究開発業務を行っています。社員数は約6,200名です。

藤沢工場には、多くの障害種類の方が在籍していますが、現在のところ聴覚障害者、中でもろう学校からの新規学卒者が大半を占めています。東京都内にある本社が一括して求人を出し、応募のあったろう学校について、本社や工場の人事担当者が訪問し雇用につなげるというかたちをとっています。配属先は製造部門が多い状況です。知的障害者についても、新規学卒者を雇用するケースが多くなっています。そのほかは、雇用後に障害者となった中途障害者です。

障害者雇用の取り組み

社内への啓発

高齢・障害者雇用支援機構が毎年募集している優秀勤労障害者表彰に社員を積極的に推薦し、推薦の対象となった社員の意欲を高めるとともに、社内への周知を図っています。

また、過去には工場の近隣で行われた手話講習会に聴覚障害者を受け入れている部署の管理者に対して情報提供を行い、受講するよう働きかけること等も行っていました。

職務の開発や調整

基本的には、特段職務の開発や調整は行わず、既存の職務の中で、一人ひとりに適した部署に配属。その後しばらくの間はOJTによりマンツーマンで指導を行ったり、業務上必要なパソコンソフトの更新があった際に手話通訳を手配して聴覚障害者に研修を受けてもらいやすい環境

を整えたり、受け入れ後のきめ細かいフォローを行っています。

一方、事務補助を行う知的障害者について、社内にある簡易な仕事をいくつか切り出して組み合わせることで1名分の仕事を創出する等、職務内容の調整を行った例もあります。



研修を受けて、スキルアップを実現

支援機関・支援制度の活用

聴覚障害者について、怪我をした際や病気になった際に産業医と相談する場合や、定年を迎えるに当たって再雇用制度にかかる説明を行う場合等、込み入った内容の説明を行う必要が生じた際に、県の聴覚障害者福祉センターに手話通訳の派遣を依頼することで、説明内容を確実に伝える体制をとっています。

雇用管理上の配慮・工夫

聴覚障害者に対しては、状況に応じて、手話通訳を依



仕事のポイントを筆談で教える

頼したりマンツーマンで筆談を行うサポート役をつける等の配慮を行っています。また、集団に対して業務を説明する場合には、説明後にメールで個別に丁寧に説明すること等も行っています。

知的障害者に対しては、社内のメール便の集配等負担の大きくない仕事に従事してもらうことを配慮しています。

このほかの障害の人については、個別の状況によって、残業を避ける等の配慮を行う場合がありますが、基本的には全員フルタイム勤務に対応しています。

雇用事例

Case1: 押見泰敬さん

40代半ば、勤続24年の押見さん。開発部門に所属し、エンジン部品の設計全般にかかる仕事（エンジン設計におけるレイアウト検討等）を行っています。

押見さんは聴覚障害2級。ろう学校の専攻科（機械）を卒業後新規学卒で入社し、以来開発の仕事に従事。幾つかの部署を経験し、これまで開発してきた部品の種類は多岐に渡ります。設計ソフトは年々新しくなっていますが、研修や検定を受けることにより、スキルアップを図っており、ベテラン社員の1人として活躍しています。

周りの人とのコミュニケーション手段は、日常業務では筆談やメール、検定を受検する際



押見さん(左)と、シニアスタッフの谷村昌紀さん

は筆談です。過去に、集団で研修（＝週に1回ずつ、合計6か月間）を受けた際に筆談だけのサポートでは十分でなかったことがあり、その際は途中からマンツーマンの研修に変更する等の配慮を行いました。

Case2: 佐藤俊さん

50代半ば、勤続30年の佐藤さん。開発部門に所属し、バス設計におけるトレーサー業務の補佐に従事しています。

佐藤さんは聴覚障害2級。ろう学校の専攻科（機械）を卒業してしばらくしてから途中で入社し、以来開発の仕事に従事。いすゞ自動車以外で働いていた経験もあります。設計ソフトは年々新しくなっていますが、研修や検定を受けることにより、スキルアップを図っており、押見さんと同様、ベテラン社員の1人として活躍しています。

周りの人とのコミュニケーション手段は、筆談やメールが中心です。過去に6名のグループで研修を受けた際は、手話通訳を配置する等の配慮を行いました。



佐藤さん(左)と、グループリーダーの土方博之さん

i 職場インタビュー

総務人事部藤沢労務グループ
金子弘幸さん

聴覚障害の社員については、一般的にコミュニケーション上の配慮を行っています。特に、部署ごとに行う朝礼で上司から連絡事項を課内の全員に対して伝える場合等は、周りの人のサポートを欠かさないようにしています。（筆談によるフォロー等）

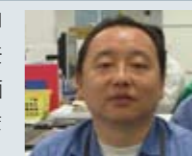
そのほかの障害の社員も含め、現在雇用している人については全員、各職場ごとに個別に合わせた配慮や工夫を行うことにより、自然に職場に溶け込んでいます。



押見泰敬さん(聴覚障害)

現在、パソコンを使って3Dモデル作成や図面作成を行っています。仕事をするうえで、「寸法を正確に測りながら作成すること」「ミスをしないようにすること」に気を付けています。入社以来ずっと設計業務をやってきて、最初は大変でしたが、周りの人に助けられて少しずつ慣れてきて、よかったです感じています。

周りの人と筆談でコミュニケーションをとる際に、時折難しい言葉があってもわかりにくいことがありますが、再度確認することで、確実にわかるようにしています。



佐藤俊さん(聴覚障害)

現在、CADを使って仕事をしています。入社当初は、仕事は手書きで行っていましたが、その後パソコンが導入され、さらにソフトが新しくなってきたため、研修を受けること、また日常的には説明してくれる人の話をよく聞くよう気をつけること等により、対応しています。ずっと開発の仕事をやってきましたが、仕事は自分に合っていてやりがいを感じています。

